

平成 20 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況（非連結）

平成 19 年 7 月 30 日

上場会社名 東洋合成工業株式会社
 コード番号 4970
 代表者 代表取締役社長 木村 正輝
 問合せ先責任者 取締役経理部長 三代川 雅人

上場取引所 JQ
 URL <http://www.toyogosei.co.jp/>
 TEL : (047)327-8080 (代表)

(百万円未満切り捨て)

1. 平成 20 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日）

(1) 経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第1四半期	3,574	(18.2)	276	(6.2)	277	(△3.9)	160	(△6.9)
19年3月期第1四半期	3,022	(3.5)	260	(△20.5)	289	(△0.8)	171	(△1.7)
19年3月期	13,642		885		795		428	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年3月期第1四半期	19	66	—	—
19年3月期第1四半期	21	12	—	—
19年3月期	52	60	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円	銭	
20年3月期第1四半期	28,581		8,521		29.8	1,046	37	
19年3月期第1四半期	28,087		8,246		29.4	1,012	62	
19年3月期	27,751		8,428		30.4	1,035	30	

2. 配当の状況

	1株あたり配当金	
	(基準日)	
	第1四半期末	
	円	銭
19年3月期第1四半期	—	—
20年3月期第1四半期	—	—

3. 平成 20 年 3 月期の業績予想（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 6 月 30 日） 【参考】

(%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
中間期	7,200	(11.6)	480	(8.3)	420	(△4.8)	240	(△14.9)	29	48
通期	15,000	(10.0)	1,060	(19.8)	900	(13.1)	530	(23.8)	65	10

4. その他

- (1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
- (2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[(注) 詳細は、4 ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想は、本資料の発表日現在における計画・見通しに基づく予測であり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業況の変化等により、記載の予想数値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務情報等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第 1 四半期におけるわが国経済は、企業収益の改善にともなう設備投資の増加などにより、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況の中、当社は積極的な営業活動と生産性向上に努めた結果、当第 1 四半期の売上高は 3,574 百万円（前年同期比+551 百万円、+18.2%）となりました。部門別の状況は下記のとおりであります。

・ 感光性材料事業部門

当事業部門の関連業界である半導体業界は、2007 年当初から生産調整や価格低下があったものの、メモリ需要を背景に第 1 四半期後半から当社の半導体向け感光材生産量は緩やかに増加し、また、LCD パネルは、前年同期の在庫調整が一巡し、2007 年から回復基調に入りました。このような状況の中、当社は積極的な営業活動と新製品開発に注力し、半導体・LCD 用途向け売上高はともに前年同期を上回りました。また、エネルギー部門のイオン液体および電解液は引続き精力的に需要開拓を進めてまいりました。

以上の結果、同事業部門の売上高は、前年同四半期に LCD パネルの在庫調整により売上高が大幅に落ち込んだこともあり、2,009 百万円（前年同期比+319 百万円、+18.9%）となりました。

・ 化成事業部門

グリーンケミカル事業の主力である溶剤リサイクルは、原油高による各種溶剤の価格高騰や環境問題の高まりなどにより市場は拡大傾向にあり、また、香料材料は、欧米、BRICs が牽引する世界経済の成長や今夏前需要を背景に、国内/海外需要ともに堅調に拡大しております。このような状況の中、長期にわたる市場開拓の成果と製品開発に注力した結果として、同事業部門の売上高は 1,158 百万円（前年同期比+211 百万円、+22.4%）となりました。

・ ロジスティック事業部門

物流コスト削減により厳しい事業環境は続いておりますが、変動的な物流ニーズを細やかにとらえ、サービス・顧客満足度向上に努め、前期 1 月に稼動した新設タンク 4 基も寄与し、同事業部門の売上高は 406 百万円（前年同期比+20 百万円、+5.3%）となりました。

損益面では、原材料費の上昇や減価償却費などの固定費が高水準であったものの、一層の生産性向上に努め、営業利益は 276 百万円（前年同期比+16 百万円、+6.2%）となりました。また、営業外収益において前期同様に研究開発に対する補助金収入を計上いたしましたが、前期比で減少したため経常利益は 277 百万円（前年同期比△11 百万円、△3.9%）、四半期純利益は 160 百万円（前年同期比△11 百万円、△6.9%）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

当第 1 四半期末におきましては、前事業年度末に比べて、総資産は 829 百万円増加し 28,581 百万円となり、負債合計は 737 百万円増加し 20,060 百万円となり、純資産は 92 百万円増加し 8,521 百万円となりました。資産の増加は、現金及び預金の増加等によるもので、負債の増加は、短期借入金の増加等によるものであります。この結果、当四半期末時点での自己資本比率は、前事業年度末の 30.4%から 29.8%になりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

平成 19 年 5 月 15 日発表（平成 19 年 3 月期決算短信）の中間期及び通期の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

法人税等の計上基準及びその他一部に簡便な方法を採用しております。

(2) 最近事業年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. (要約) 四半期財務諸表

(1) (要約) 四半期貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第1四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第1四半期末)	増 減		(参考) 前期末 (平成19年3月 期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
現金及び預金	2,054	2,241	186	9.1	1,491
受取手形及び売掛金	3,243	3,531	287	8.9	3,225
たな卸資産	4,936	5,411	475	9.6	5,242
その他	239	293	54	22.7	387
流動資産合計	10,473	11,476	1,003	9.6	10,347
II 固定資産					
有形固定資産	16,473	15,953	△520	△3.2	16,257
無形固定資産	191	172	△19	△10.0	177
投資その他の資産	949	978	29	3.1	968
固定資産合計	17,614	17,104	△510	△2.9	17,403
資産合計	28,087	28,581	493	1.8	27,751
(負債の部)					
I 流動負債					
支払手形及び買掛金	2,078	2,164	86	4.2	2,174
短期借入金	9,254	11,020	1,766	19.1	8,383
その他	2,809	955	△1,854	△66.0	2,324
流動負債合計	14,142	14,140	△1	△0.0	12,882
II 固定負債					
長期借入金	4,660	4,830	170	3.7	5,363
その他	1,038	1,088	49	4.8	1,077
固定負債合計	5,699	5,919	219	3.9	6,440
負債合計	19,841	20,060	218	1.1	19,322
(純資産の部)					
I 株主資本					
資本金	1,618	1,618	—	—	1,618
資本剰余金	1,541	1,541	—	—	1,541
利益剰余金	4,923	5,217	294	6.0	5,118
自己株式	△0	△0	—	—	△0
株主資本合計	8,082	8,377	294	3.6	8,278
II 評価・換算差額等					
その他有価証券評価 差額金	163	143	△19	△11.9	150
評価・換算差額等合 計	163	143	△19	△11.9	150
純資産合計	8,246	8,521	274	3.3	8,428
負債及び純資産合計	28,087	28,581	493	1.8	27,751

(2) (要約) 四半期損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成 19 年 3 月期 第 1 四半期)	当四半期 (平成 20 年 3 月期 第 1 四半期)	増 減		(参考) 前期 平成 19 年 3 月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	3,022	3,574	551	18.2	13,642
II 売上原価	2,284	2,831	546	23.9	10,820
売上総利益	738	743	4	0.7	2,821
III 販売費及び一般管理費	477	466	△11	△2.3	1,936
営業利益	260	276	16	6.2	885
IV 営業外収益	90	53	△37	△41.2	137
V 営業外費用	62	52	△10	△16.2	226
経常利益	289	277	△11	△3.9	795
VI 特別利益	—	—	—	—	9
VII 特別損失	2	10	8	337.0	149
税金等調整前四半期(当 期)純利益	286	266	△19	△6.9	655
税金費用	114	106	△7	△6.9	227
四半期(当期)純利益	171	160	△11	△6.9	428